

第1回文京区協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部 要点記録

日 時：平成25年5月17日（金） 午後4時00分～5時30分
場 所：都市計画会議室

<会議次第>

- 1 開会
- 2 本部員委嘱
- 3 区長挨拶
- 4 議題
(1) 本部の運営等について
(2) 「新たな公共プロジェクト」の実施について
- 5 その他
- 6 閉会

<出席者（名簿順）>

田中 芳夫 本部長（区民部長）、安藤 哲也 本部員、各務 茂夫 本部員、菊地 端夫 本部員、
丁寧 本部員、石嶋 大介 本部員（区民課長）、境野 詩峰 本部員（協働推進担当課長）
【事務局等】 区民課主査（1）、区民課主事（1）、パートナー事業者（株式会社エンパ
ブリック）（2）

<欠席者>

井上 英之 本部員

<議 論（要点）>

1 開会

田中区民部長：開会

境野協働推進担当課長：出席状況と資料について確認。米国滞在中の井上本部員が欠席

2 委員の委嘱

区長より、安藤哲也本部員、各務茂夫本部員、菊地端夫本部員、丁寧本部員に委嘱状を交
付

3 区長挨拶

区長：先生方にご尽力いただいた提言を受けて、担当課長を置き、今年度より新たな公共
プロジェクトをスタートさせる。専門家会議に引き続き、アドバイザーリーボードとし
てご支援いただきたいということで、よろしくお願いします。

専門家会議では文京区には花咲く土壌があるということだが、事業はいきなり立ち上が
るのではなく、種を撒いて畑を耕し水をあげる時期が必要だろう。予算ありきで支援す
るのではなく、芽の出るプロジェクトを精査していただき、中長期的にいいプロジェク
トを支援していきたい。文京区の地域課題解決の取組なので、必ずしも文京区初にこだ
わらず、他の成功事例を持ってくるのもよいし、先生方のご紹介も含め、公平を旨に様々
な可能性に柔軟な形で対応していきたい。

息の長いプロジェクトになるが、引き続きよろしくお願いします。

（区長退席）

4 議題

(1) 本部の運営等について

境野協働推進担当課長：資料第1号から第3号に基づき説明

田中区民部長：区役所内部の風土改革のため、協働推進委員会は、各部の庶務を担当する課長を委員とし、各課を巻き込み、全庁を挙げて協働を推進していきたい。

安藤本部員：委員会はどの程度の頻度で行うのか。また、「委員会の下に支援本部を置く」とあるが、支援本部が決定したことを、委員会が否決することというはあるのか。

境野協働推進担当課長：委員会は節目ごとに開催する。スキームについては、本部が中心で、委員会は情報共有の場である。本部の決定は尊重されると考えてもらいたい。

安藤本部員：委員会に広報課長が入っていないのはどうしてか。

石嶋課長：広報課は、企画政策部内にあるので、企画課長を通じて情報が共有されるようになっている。

境野協働推進担当課長：資料第3号の本部の公開についてご意見をいただきたい。審査や助言をする上で自由な意見がいろいろではないかということで、基本傍聴は認めないが、必要に応じて傍聴を認めるとした。資料や会議録については、原則、個人情報以外は公開するという事務局案としたがいかがか。

安藤本部員：情報公開については、これまでにない新しいタイプのプロジェクトということもあるので、それなりに新しさとかインパクトがないと、伝わらないのではないか。今の形だと、普通の協議会と同じである。本部は非公開でも、区民を巻き込んだ討論会やミーティングをやるという姿勢も欲しい。また、Facebook等も活用し、本部委員も書き込むというような開かれたものにする必要があるのではないか。ホームページだけだとフィルターがかかっているように見える。トークセッションに来ない人をどう巻き込んでいくかが大切。

菊地本部員：原則公開、例外的に非公開の方がよい。専門家会議は傍聴は認めないが、一言一句すべて議事録で見せるとなっていた。プロジェクト選考会は、公開に対する事業者側への配慮とのバランスを考える必要がある。

各務本部員：新しく開かれたものであるべきなので、原則公開がよい。

菊地本部員：新しいことなので、我々も悩んでいるということを見せることが大事。

境野協働推進担当課長：公開にして、選考時に選考委員から厳しいことを言われた時の実施者のイメージダウンが心配である。プレゼン内容は公開して、アドバイスの部分は非公開にする考え方もある。

石嶋課長：個人情報の漏れることと、事業者の権利ノウハウを守ることを保証するということが必要なので、あくまでも原則公開の中で、それらを守るような文言を書き込む必要があるのではないか。資料の回収を認め、録音録画を認めないなど事業者側の保護をしていく折衷案が必要。

田中区民部長：原則公開にして、ただし書きで、個人情報、事業者利益について考慮することとしたい。資料第3号については、事務局で修正案を作成し改めてご確認いただくようにしたい。

(2)「新たな公共プロジェクト」の実施について

境野協働推進担当課長：資料第4号から第7号に基づき説明。

安藤本部員：5月26日のキックオフイベントは、定員50名だが応募者の人数は。

境野協働推進担当課長：64名の応募があり、内訳としては、区民43名、区議5名、職員6名、町会4名、その他6名といった状況である。その他運営面では昨年度の地域貢献講座受講生にファシリテーターとして参加していただく予定である。

各務本部員：イベントでは3つのテーマで対話するのか。

境野協働推進担当課長：イベントでは、3つのテーマに絞らず、もう少し話のしやすいテーマにして、対話の楽しさを体験していただきたいと考えている。

境野協働推進担当課長：選考基準や支援金をどのくらいにするのかご議論いただきたい。最終的には自立していただくのが基本なので、支援金は4か月で20万円程度と考えている。事業費補助ではなく、事業構築を少し支援するというスタンスである。

各務本部員：対話の場と8月のプロジェクト選考は繋がっているのか。

境野協働推進担当課長：今年は1年目なので、対話は対話で行い、対話の人が直接プロジェクトには繋がらないと考えている。来年度は対話から生まれた事業がプロジェクト登録されればと期待している。

各務本部員：プロジェクトを育てるためには、メンタリングの機能が必要。稚拙であっても色々な方のフィードバックがあってもよい。

菊地本部員：文京区やエンパブリックから支援を受けているというのが団体に信用力をつけることにもなるので、支援を上手く使いこなせれば金額以上の効果を得ることも可能である。

各務本部員：第1クールで提案がされて、先に進めそうだという評価されたものが実際にその4か月の間で何をするのか。PDCAを回し、リアリティチェックをした後に、その後、どのように区民にフィードバックするのか、4か月でやること明確にした方がよい。

境野協働推進担当課長：今のところ最長2年くらいで育てるイメージを持っている。クールごとに内容をチェックし、最終的には区とパートナーシップを組む事業者となっただけのように支援していきたいと考えている。

丁本部員：同じクールの中でステージの違うプロジェクトが走ることがあるのか。

境野協働推進担当課長：1クールの中で走らせるプロジェクトは数本と想定しており、第2クールでは、継続のものもあれば、新たに入ってくるプロジェクトもある。

各務本部員：本部員の役割はプロジェクトを落とすというよりは、メンタリング等の教育的な役割が大事になってくるのではないか。メンターはパートナー事業者が行うのか。

パートナー事業者：選考エントリー前に書類の書き方等をフォローするワークショップを行い、そこでメンタリングも行う。この段階で未熟なものについては、社会起業家講座等へのご案内などでフォローしたいと考えている。本部までに上がってきたものは、先

生方に適切なアドバイスをお願いしたい。

5 その他

第2回と第3回の日程を決定

第2回…8月5日（月）午前中

第3回…12月9日（月）午前中

6 閉会

以上